

(様式6-3)

研修等 報告書

令和5年 8月10日

三田市議会議長 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代表者	
		議員名	美藤 和広
参加者氏名	美藤 和広		
講演会等研修名	全国地方議会サミット2023 in 早稲田		
研修事項	・変わる社会・デジタル・あたらしい民主主義 ～激変する時代に対応する社会基盤としての議会を実装する～ 基調講演・特別講演・鼎談・政策議会の一般質問・等		
日 時	令和5年7月5日(水曜日)～ 7月6日(木曜日)		
場 所	早稲田大学大隈記念講堂 (Web参加)		
所見	別紙参照		
添付資料	別紙参照		

<所見>

2023-07-05～06 全国地方議会サミット2023

・変わる社会・デジタル・あたらしい民主主義
～激変する時代に対応する社会基盤としての議会を実装する～

今回、Web参加で拝聴した。事前に大量の資料が送られ、その準備に時間がかかったが、いずれも、先進的な取り組みで十分に成果が得られた、と自負している。

<7月5日>

◆基調講演：北川正恭：早稲田大学 名誉教授、元三重県知事

「激変する時代に対応する議会を実装せよ」では、地方議会の可能性を示して頂いた。
大きな変革「デジタル革命」で新しい価値を、地方議会が担っている。
従来の、法律と規則を守る「ルール・オリエンテッド」な前例主義から脱皮し、
議会が民意の反映とする「ミッション・オリエンテッド」として、
監視機能だけでなく、積極的な関与で、地方を変える。
まさに、今、私たちが求められている役目だと、痛感している。

◆特別講演：河野太郎：デジタル庁大臣

「デジタルで変わる社会：地方と議会への期待」では、三田のスマートシティの後押しであった。
デジタル庁のゴールは、人が人に寄り添うぬくもりのある社会、人は人がやらなくてはならないことに集中する社会、であり、デジタル化は、その手段の1つである。
この言葉に、デジタル化の重みを感じる。
今、国のデジタル化における足踏みに、準備不足とアピール不足を感じているが、本来のサービスによる効果をしっかりと整理し、国民に浸透させてほしいと考える。

◆「デジタルで変わる自治体・政策」では、各市の取り組みに感動をするほど驚かされた。

・都城市のマイナンバーカード普及9割越えは、その効果を市民に浸透した結果で、そのための徹底した活動に、三田市も見習うべきところを感じた。
・横須賀市の ChatGPT 活用事例は、私の一般質問と同じような方向性を示して頂いた思いである。
要は、いかに活用し、実務効果の結果を出せるかだと考える。
・長野県の県内77市町村の協働電子図書館は、長野県という距離的なハンディキャップを、逆に必要性に活かし、地道な活動の展開が素晴らしく、未来を見据えた活動だと思う。

◆「オンラインとデジタルを活かす」

議会デジタル化の必要性として、大きく3つの課題（①財源、②議員間デバインド、③個人情報の取り扱い）を、全体の了解の中で進めていく必要性が重要であり、三田市議会でも、その点を配慮してきたつもりである。決して遅れているわけではなく、地に足の着いた進め方こそ、長い目で効果的なデジタル化だと思う。改めて、これからも市のデジタル化を図っていきたい。

◆「デジタルが拓くあたらしい民主主義」

電子投票やインターネット投票など、まだまだ課題が多いテーマに、果敢に挑戦している人たちがいることは尊敬に値する。まだまだデジタルデバイドを騒いでいる街では、難しいと感じる。

無投票の選挙となった町の選挙公報のあり方（無投票確定時点で公報は配布されない）に対する課題意識には、同感であり、議員として、どのように考えているのか、選挙民に知らせるべきだと思う。同様に、少しでも早く配布されるべきとも考える。

つくば市議会の選挙カーを使わない、街頭演説をしない、後援会・事務所を作らない、新しい選挙のあり方には、ちょっとしたカルチャーショックを感じた。「選挙チェンジチャレンジの会」は、今のネット社会だからこそ成り立つのかもしれない。やはり、デジタル環境が前提だと思う。

<7月6日>

◆鼎談「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」では、地方分権をリードする3氏（北川正恭氏・片山善博氏・廣瀬克哉氏）のそれぞれの思いを拝聴できた。

時間をかけて、地方自治の改革が進められてきたことは理解できた。マニ研を含め、熱い議員が日本中に存在するのだが、なかなか改革派が主流にならない、議会は民度のバロメーターの言葉のごとく、議会から活性化する機運を作っていきたい。

◆「政策議会の一般質問」では、三田市でもご講演いただいた土山希美枝氏の理想とする議会を別海町議会や鷹栖町議会で実現されていた。一般質問を事前に全員で議論したり、議会の発信を中づくり広告風のビラ作成など、少し極端な事例ではあったが、町議会ならではの連帯の強さを感じた。

◆「自治体監査と議選監査委員を活かす」では、議会と財務の可能性を提案していただいた。

特に、可児市議会の議選監査委員は、役所の半分の時間を監査委員として活動し、学校や出先機関まで出向いて行って監査する、まるでマルサのような活躍に感動した。対応できる議員がどのくらいいるのだろうか。三田市では、度重なる監査請求に拘束される時間に音を上げ、議選監査は廃止した。

◆「政策につよい議会をつくる」では、議会全体のレベルアップの必要性を感じた。

特に、前大津市議会局長の政策立案づくりのポイントは、条例制定権を優先的に活用するために、議会立法を可能とする体制を整備し、持続可能性を担保するためPDCAサイクルを確立すること、との言葉に議会の可能性を感じた。

◆総評

今回ポイントは、「ミッション・オリエンテッド」市民のために何ができるか。

そして、とにかく、参加メンバーが熱い！

取り組みに対するこだわりはとて強く、地方から、議会から、地域を国を変えたい、そのようなエネルギーを感じる。三田市議会も熱い時期があったが、少し冷めた思いもしていたので、これを機に新たな改革議会へのステップになるよう、頑張りたい。

以上